２０２３年５月２１日（復活節第７主日・昇天後主日、A 年）
牧師メッセージ

「主イエスの不在／とりなし主なるイエス」

（ヨハネによる福音書 17:1-11）

司祭ヨセフ太田信三

主イエスはご復活から４０日後に天に昇られました。今、わたしたちは教会暦のなかで、主の昇天後、弟子たちが約束の聖霊降臨を待ち望んでいる、そういう時を歩んでいます。弟子たちがこの時直面した、「主イエスの不在」という状況、心境は、実はわたしたちクリスチャンにとっては非常に身近な「問題」ではないでしょうか。もちろん、わたしたちはすでに弟子たちに聖霊が降り、聖霊が働かれている今を生きているのですが、時として、わたしたちは「主イエスの不在」、という信仰の苦しみに直面します。どんなに祈っても聞かれない、今助けてほしいのに主イエスは助けてくれない、そういう現実のなかで、わたしたちは「主イエスの不在」を感じ、不安になり、揺れます。今日の福音はそのような現実を生きるクリスチャンを力強く励ましています。主イエスが「彼らを守ってください」と、神に願ってくださっているというのです。そうして、天に昇られた主イエスがとりなしてくださるから、あなたが弱くとも、不安でも、揺らいでも大丈夫だ、そう今日の福音はわたしたちに宣言し、励ましています。

今日の福音は、「主イエスの不在」を感じ、葛藤し、揺れる、そういう人間であっても、あなたがたは信じることができるし、その先には、主イエスと神が一体であるように、あなたがたもその交わりに加えられ一つにされる、なぜなら主が天上でとりなしてくださっているからだ、と語ります。だからこそ、今日の福音は、こうも述べます。「彼らはみ言葉を守りました。」「彼らは知っています。なぜなら、わたしはあなたから受けた言葉を彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです。」これを読む時、「わたしはみ言葉を守ることも、主イエスをまことに信じ切ることもできていません。」という思いを抱かずにはいられません。しかし、それを決めるのは、わたしたちではないのです。それを決めるのは神です。その神によってわたしたちはこうして今日も主イエスの名によって神の家族とされています。神の教会に連なるものとされています。これがわたしたちに起こっている真実です。わたしたちは確かに不信仰なものでありながらも、確かに今、ここにいる。わたしたちがふさわしい行いをしたからではありません。主イエスが、神と主イエスとの交わりにわたしたち一人ひとりが加えられるように、とりなしてくださっているからわたしたちはここにいるのです。ですから、わたしたちは弱くとも、強いのです。

神は必ず主イエスのとりなしの祈りを聴き、必ずわたしたちを守り、導いてくださいます。今注がれているこの恵みを感じて、生きていくことができますように。